

## 平成 20 年度第 1 回経営工学教育 FD/IT 活用研究委員会議事概要

- I. 日時 平成 20 年度 6 月 14 日 (土) 17 時～19 時 30 分
- II. 場所 私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者 渡辺委員長、越島委員、玉木委員、後藤委員、細野委員、佐々木委員  
中島委員、小池委員、  
井端事務局長、森下主幹、恩田事務員

### IV. 検討事項

#### 1. 本年度の委員会活動について

本年度は学士力について検討、その後次年度にかけて詳細な学士力や到達目標、コアカリのイメージ、教材・産学連携等について検討する。

学士力は経営工学固有の最低限身に付けるべき能力として 1 つの能力に対して 1・2 行で端的に表現するものとする。

#### 2. 学士力の検討に当たっての意見

- ① 端的な 1・2 行の表現では空理なものにならないか、演繹的な方法：原理・原則から出発、実態は、帰納的：社会で学生が求められているものにする必要がある。
- ② 欧諸ではどうしているのか、実態のデータ調べる必要がある。
- ③ 社会人力との関係も考慮する必要があるのではないか。
- ④ 海外の調査も必要では？技術士の経営分野も調査必要、どこかの水準をこの委員会の水準にするか？どの分野を対象とするのか？経営工学は広い、柱が数本で済まない、他の工学と異なる、綺麗な体系ができない、
- ⑤ JABEE の基準は参考にはなるが、そのままは使えない
- ⑥ 他の工学は、他大学と差別化することは意識していないが経営工学は各大学で特徴を持たせようとしているのでカバーする範囲が広くどこかに特化しようとするると大変である。
- ⑦ 範囲は広がったにしても、最大公約数があるのではないか。
- ⑧ 経営を科学的に見る、問題点を発見、問題解決を行う。システム工学的に始めから扱うと全部細かくして独立のものとして扱う考え方に落ちてしまう。
- ⑨ 経営をわからないと駄目、演繹的に出てこない、日本固有の議論は誰もしていない、海外からの経営論を元になっている。
- ⑩ 能力として必要なものを卒業生からの聞き取り調査や海外のデータの検討も必要。
- ⑪ 経営工学として固有の専門教養、専門性の部分の学士力を論議したい。

- ⑫ 専門分野で身に付く能力だけに限定する。
- ⑬ 経営工学特有の部分として技術士 2 次試験の範囲は使えないのか検討
- ⑭ 委員会で決めて、サイバーFD 研究員 108 名に見てもらう

### 3. 経営工学教育における学士力について

- ・ コア領域が果たして全大学で教育されているか、各大学に偏りがあるはず。
- ・ 企業の内側ばかり見ていた旧来の経営工学から今後は企業の外との関連性も見ていく必要があるのではないか。
- ・ 経営を情報の側面から見る、人を扱う能力も必要。
- ・ **Introduction to Engineering and Engineering Design** (30 年前の書籍、技術者の素養) を基にして検討したが、技能はかぶっているが態度は異なっている。
- ・ 偏見のない態度は必要、単なるコミュニケーションは能力ではない、プロ意識が必要  
「医者と通じる部分であの人に聞いたら大丈夫」が必要。
- ・ 欧米ではすでに浸透している「倫理観」を追加する。
- ・ 態度も重要、態度がしっかりしないと専門性が生きてこない。
- ・ 業務プロセスを通して、学問分野活用できるか、会社の資源を有効に使えるか、人・物・金・情報を有効に使えるかが必要。

### 4. 今後の活動について

本日の委員案をベースに検討する、その上で議論を先に進め、更に修正する。

### 5. その他

次回の委員会 8 月 1 日 (金) 16 時～18 時